

# 不整脈の一番の原因は加齢



## 不整脈はさまざまな原因で起こる

不整脈にはさまざまな種類があり、その原因もまちまちです。

### 加齢

不整脈全般が発症する第一の要因としてあげられるのは、加齢です。不整脈は、心拍を生じさせる電気信号の発生や伝達に不具合が生じることで起こります。年齢を重ねることで、その電気系統に不調が起こったり、働きが低下したりするのです。

### 遺伝（体質）

生まれつき、心臓の電気信号を送るシステムに異常があることが原因となるケースもあります。これは体質的な問題といえます。

### 心臓病

心筋梗塞や狭心症、心筋症、心臓弁膜症などの心臓病があると、その影響で、二次的に電気系統の異常を誘発して不整脈が起こる場合があります。

### 呼吸器・肺の病気

COPD（慢性閉塞性肺疾患）や肺気腫などの慢性的な呼吸不全や睡眠時無呼吸症候群なども不整脈を引き起こす原因とすることがあります。

COPDのある人は、肺高血圧症（心臓から肺に向かう肺動脈の血圧が上昇する状態）を合併しやすく、右心室に過大な負担がかかって不整脈を起こしやすくなります。睡眠時無呼吸症候群では、就寝中に酸欠状態になることで、自律神経のバランスが崩れ、不整脈を引き起こしやすくなるといわれています。

### 高血圧

血圧が高くなると心臓に負担がかかりやすくなることから、高血圧も不整脈を誘発しやすいことがわかっています。血圧の管理は、不整脈の予防や治療においても重要な対策となります。